

科目名		木造知識演習				
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	○	
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築大工着の検定取得の対策として。筆記試験対策をはじめ、大工技術の知識、課題を学び、合格基準に準ずるスキルを習得する 1. 説明→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 模擬材料の加工の基本を中心に実習し評価・解説する。 3. 条件に則した課題の作り方の手順を理解する。 4. 検定対策として、時間内に作成できるよう、繰り返し修練する				
学習目標 (到達目標)		展開図の基本を習得し、それを理解し原寸図を書けるようになり、建築大工技能検定2級取得を目指します。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布資料				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	規矩術について ①大工技術の基本である規矩術を学ぶ。 ②建築物の屋根の勾配をどのようにして墨付けから加工手法		方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し課題提出後フィードバック ①～②の項目を理解し適正に作成できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
2	建築大工技能検定についての説明		方法：建築大工技能検定3級がどのような試験内容なのか、どんなことをすれば受かるのかを理解する。			
3	技能検定3級学科問題		方法：3級学科試験の過去問題を繰り返し解答→解説			
4	3級学科模擬試験		方法：3級学科試験の過去問題を繰り返し解答→解説			
5	3級模擬課題の墨付け練習 ①木材を使って墨付け		方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し課題提出後フィードバック ①～②の項目を理解し適正に作成できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
6	3級模擬課題の加工、組立 ①模擬材料の材料で墨出しをした材料を加工から組立		方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し課題提出後フィードバック ①～②の項目を理解し適正に作成できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
7	3級技能士本番用木材での墨付け・加工・組立 ①本番と同じサイズの木材で一連を通して練習。 ②標準時間内ですべて組立られるよう繰り返し行う。		方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し課題提出後フィードバック ①～②の項目を理解し適正に作成できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
授業での課題提出状況、及びその完成度を見て評価する。学科では問題を繰り返し復習し、最後に学科の模擬テストを行う。もちろん授業態度や出席状況も評価していく。 課題提出50%、技能取組姿勢30%、出席状況20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			建築大工技能検定2級取得の対策として、展開図を書ける様に基礎知識をしっかりと理解させる。技術を身につけるため。基本を固め、演習を繰り返すことにつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。			
実務経験教員の経歴		建築大工として約5年実務に携わる				